

グラフで見る関西経済(2023年6月)

2023年6月26日

調査部 主任研究員 塚田 裕昭

今月の景気判断～足踏み状態となっている

【今月のポイント】

- 関西経済は、足踏み状態となっている。
- 4月の生産は3カ月ぶりに減少し、足踏み状態となっている。電子部品デバイスは増加したものの水準は低く、電気機械、汎用・生産用・業務用機械が減少した。
- 4月の実質輸出は前月比－3.8%と2カ月ぶりに低下し、弱含んでいる。
- 個人消費は、コロナ感染の行方、物価上昇などが懸念されるが、ウィズコロナの定着により持ち直しの動きがみられる。自動車販売も、コロナ前を下回る水準ではあるが、持ち直しの動きがみられる。
- 4月の住宅着工は、季節調整済年率換算値で11万戸程度となり、弱含んでいる。

項目	現状
景気全般	足踏み状態となっている
生産	足踏み状態となっている
輸出	弱含んでいる(↓)
設備投資	持ち直している
雇用	持ち直しの動きがみられる
賃金	持ち直しの動きがみられる
個人消費	持ち直しの動きがみられる
住宅投資	弱含んでいる(↓)
公共投資	高めの水準となっている(↑)

注: ()内は前月からの変化の方向

輸出は、「足踏み状態」から下方修正(↓)

住宅投資は、「持ち直しの動きがみられる」から下方修正(↓)

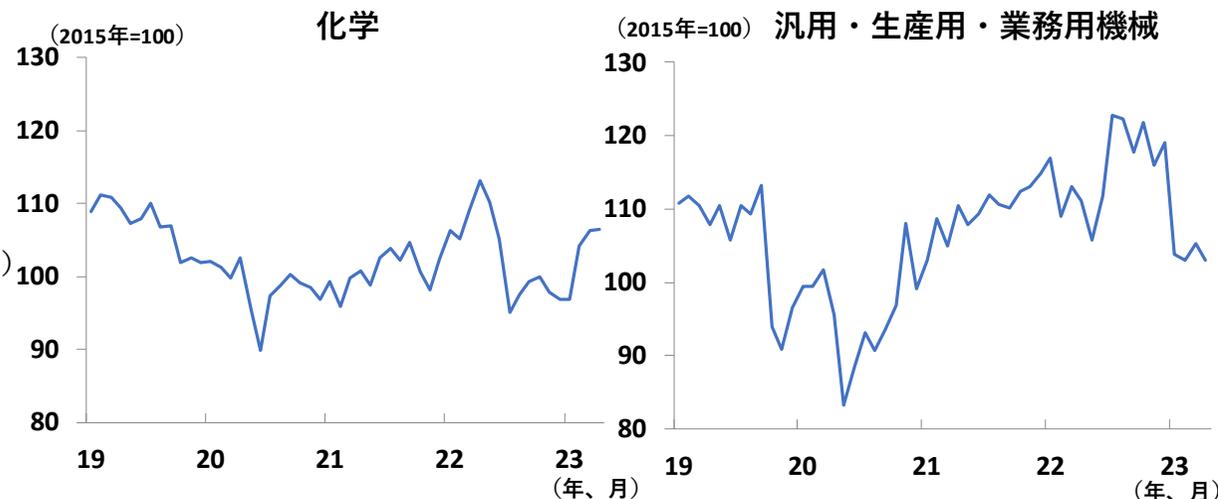
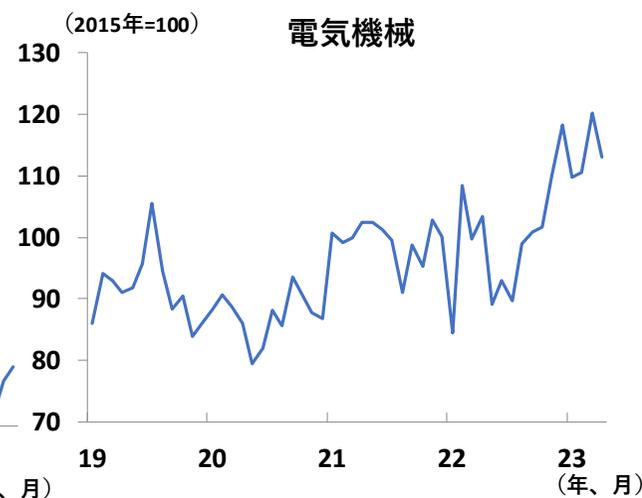
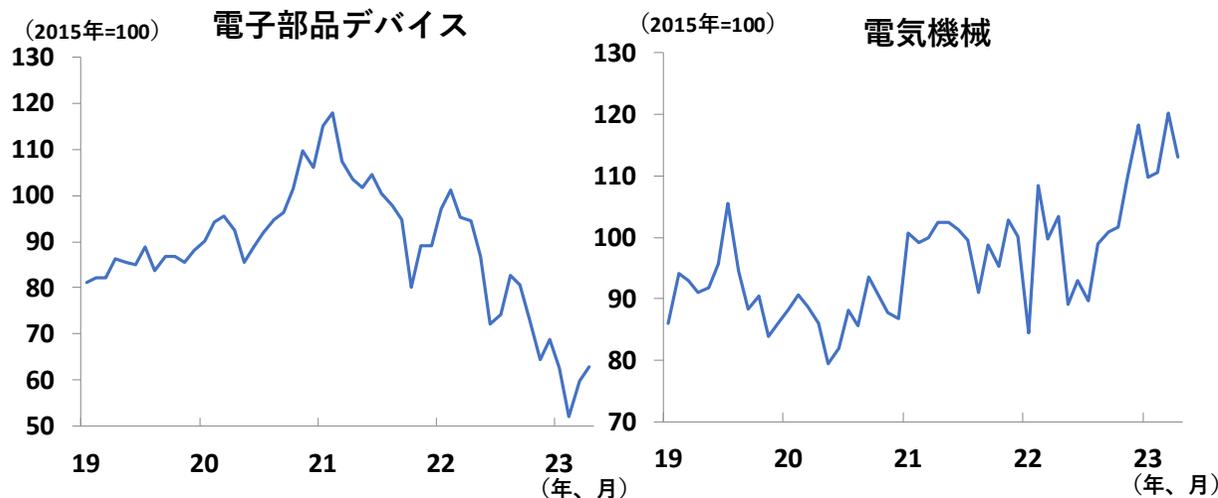
公共投資は、「横ばい圏で推移」から上方修正(↑)

生産

4月の鉱工業生産(関西)は前月比-0.3%と3カ月ぶりに減少し、足踏み状態となっている。業種別では、電子部品デバイス、化学が増加する一方、電気機械、汎用・生産用・業務用機械は減少した。

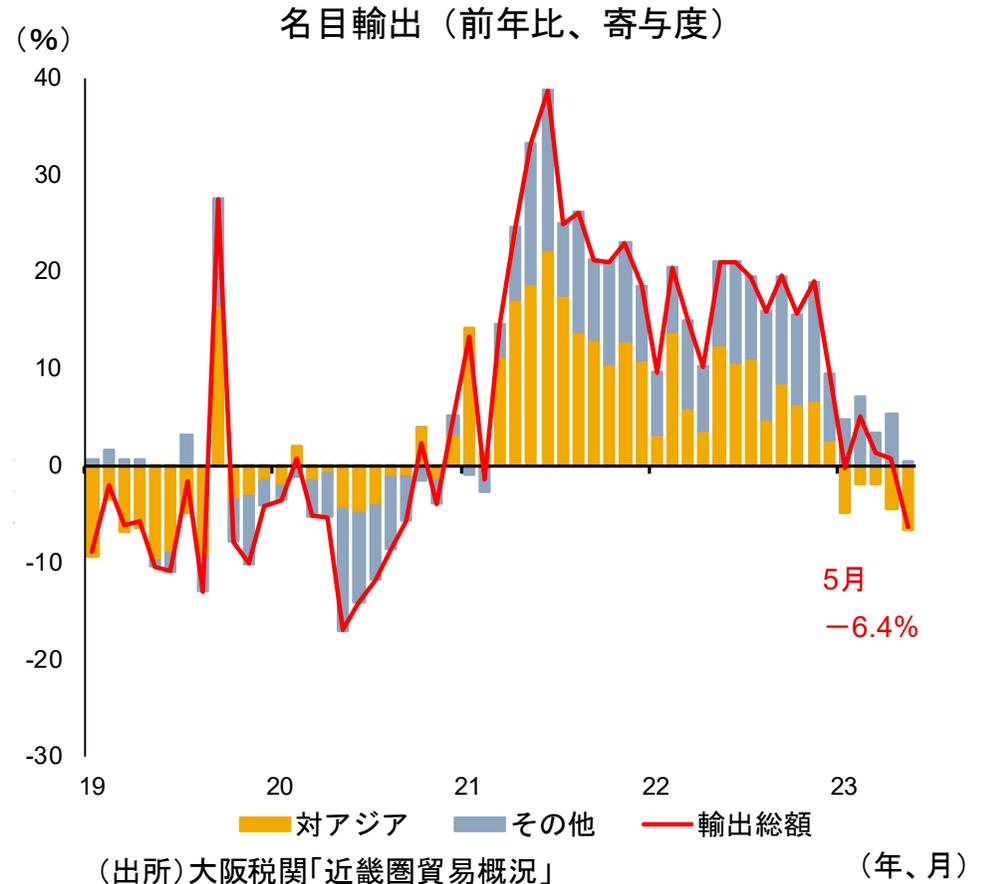
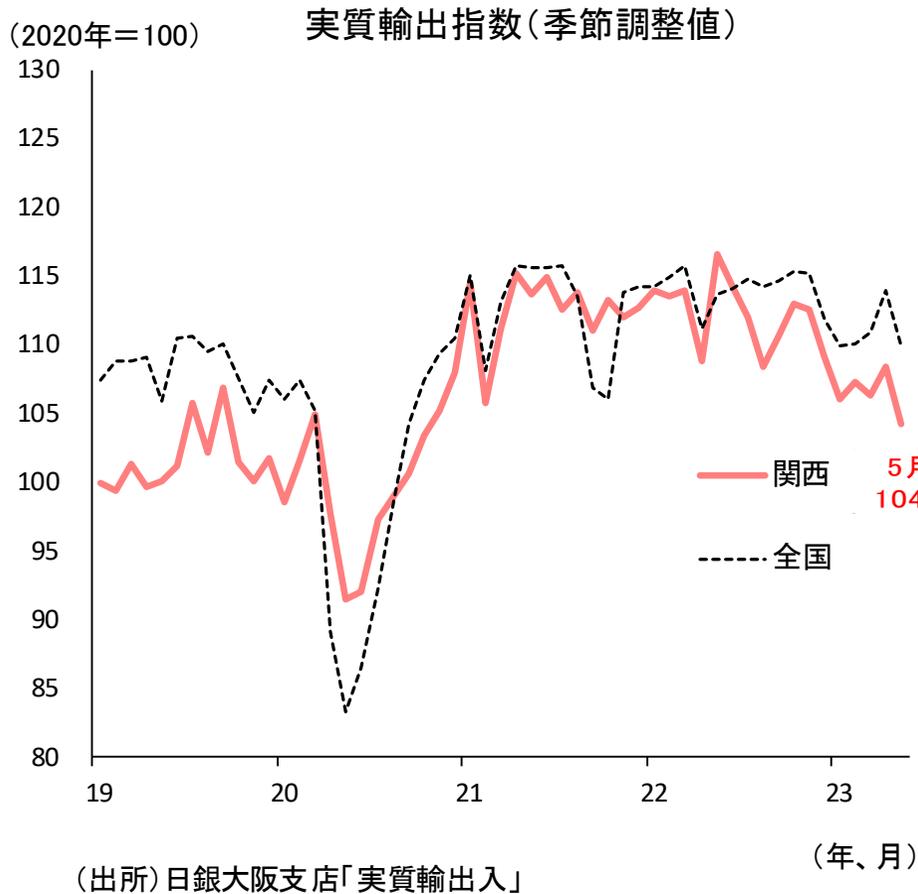


(出所)経済産業省「鉱工業生産動向」



輸出

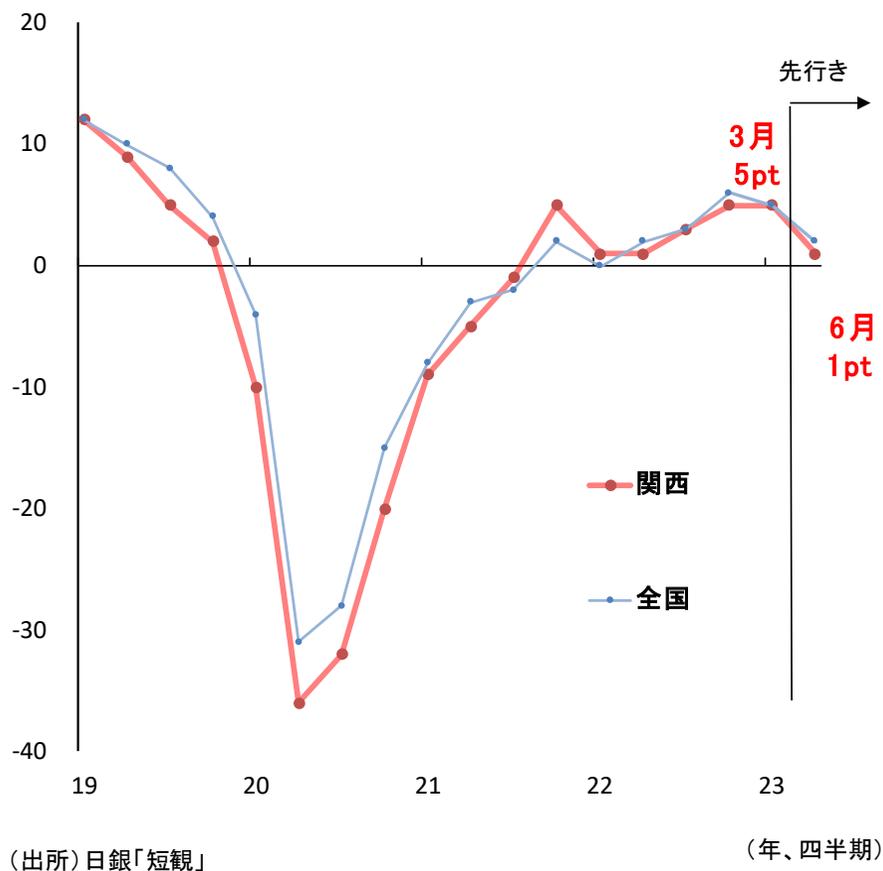
5月の実質輸出(季節調整値)は、前月比-3.8%の104.3と2ヵ月ぶりに低下し弱含んでいる。名目輸出額(5月)は4ヵ月ぶりに減少。地域別では、米国向けの増加が続いたが、アジア向けの減少が続き、EU、その他地域も減少した。品目別では半導体電子部品、原料品、半導体等製造装置などが減少した。



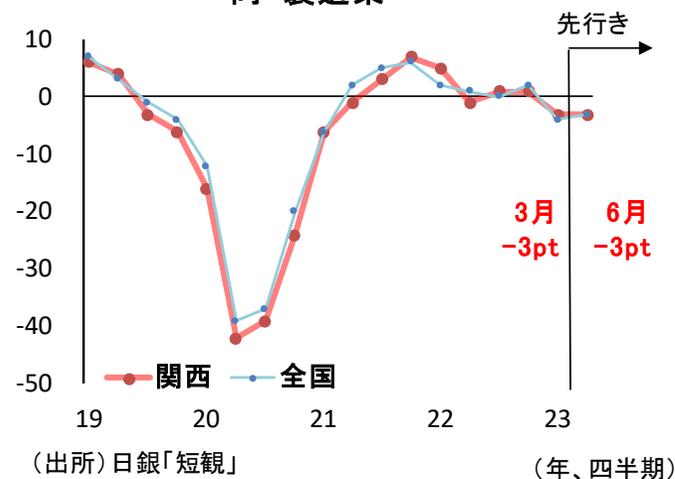
企業景況感(日銀短観) ※以下は4/3公表の3月調査。6月調査は7/3公表予定

日銀短観3月調査の業況判断DIIは、全産業で+5ptと12月調査から横ばい。海外経済減速等の影響で製造業は悪化し、ウイズコロナの定着、インバウンド回復もあって非製造業は改善した。先行き(6月)については、製造業は横ばい、非製造業は悪化が見込まれている。

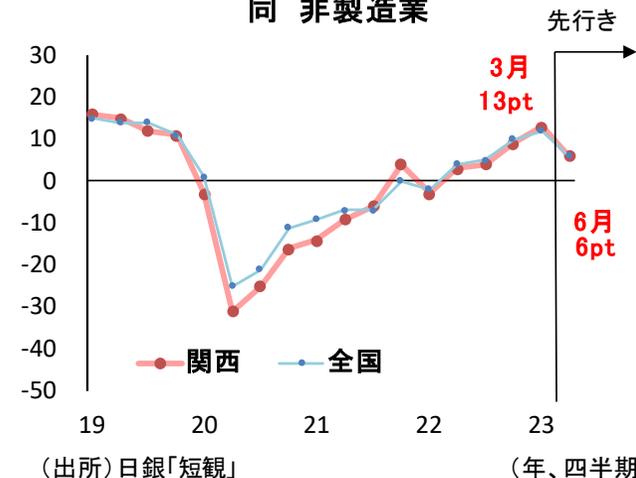
短観 業況判断DII「全産業」



同 製造業

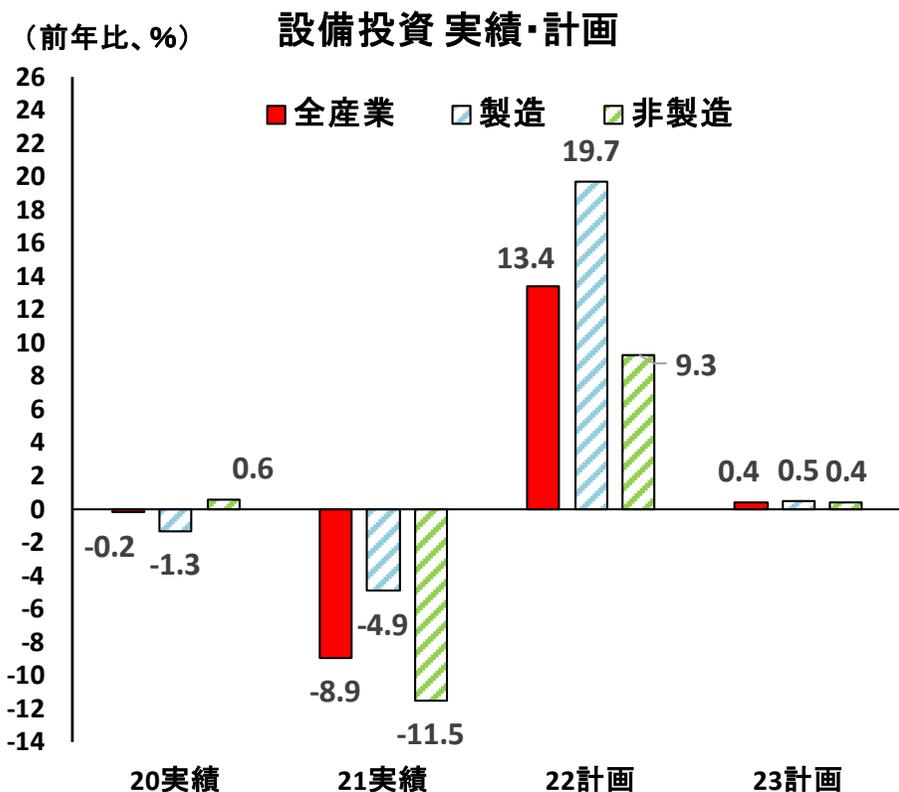


同 非製造業



設備投資※以下は4/3公表の3月調査。6月調査は7/3公表予定

日銀短観3月調査によると、22年度の設備投資は前年比+13.4%と、12月調査から下方修正となったが2桁増の高い伸びを見込んでおり、持ち直している。23年度については、3月調査ということもあり、ほぼ前年度並みの計画となっている。



設備投資額(前年比%)

	21年度実績	22年度計画		23年度計画
		今回調査 (前回調査との差異)	前回調査	
全産業	-8.9	13.4 (-2.5)	15.9	0.4
製造業	-4.9	19.7 (-4.3)	24.0	0.5
非製造業	-11.5	9.3 (-1.3)	10.6	0.4

(出所)日銀大阪支店「短観」

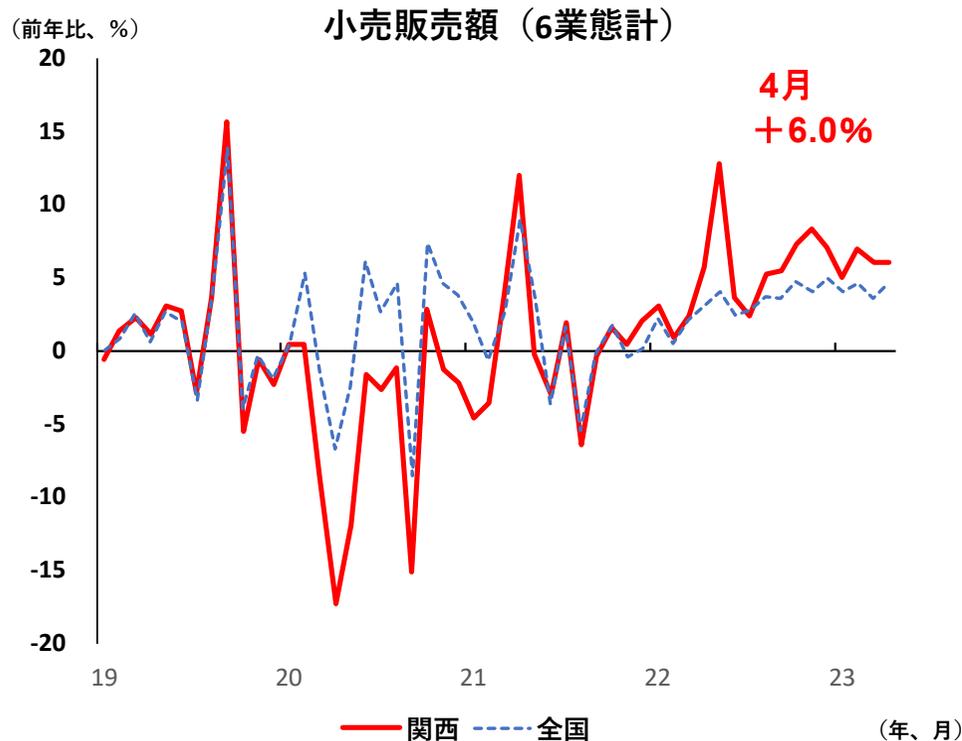
(注)設備投資は、含む土地投資額

(年度)

個人消費(小売売上、自動車販売)

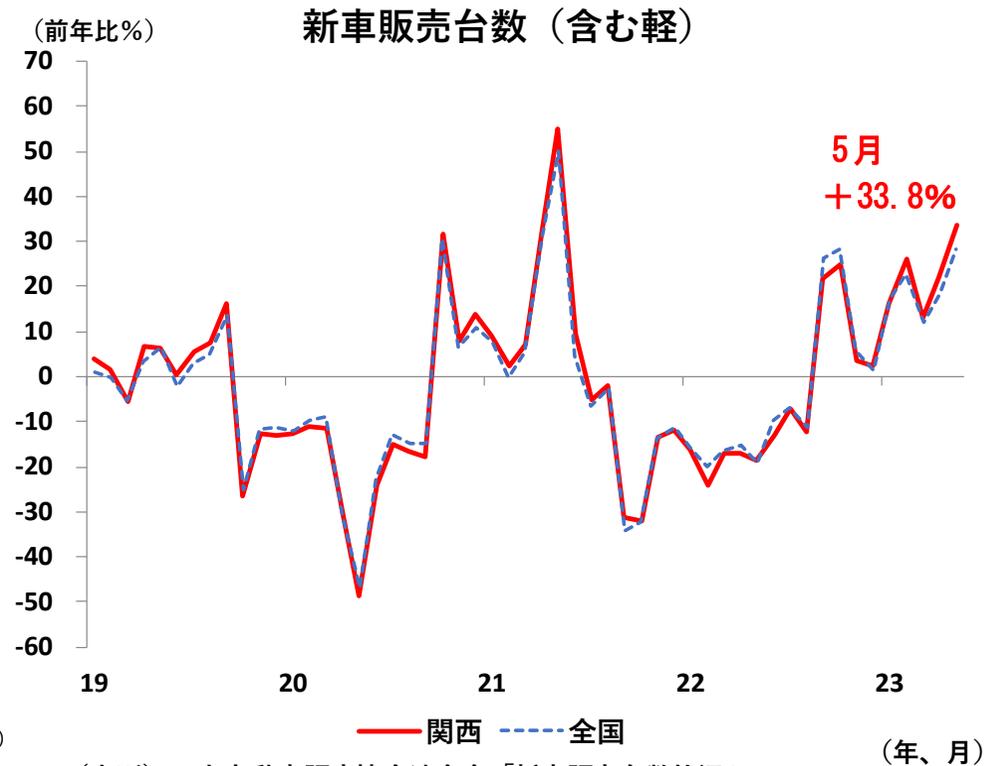
4月の小売販売額は前年比+6.0%と19ヵ月連続で増加した。先行きは、物価上昇の影響が懸念されるが、ウイズコロナの定着により持ち直しの動きが続くとみられる。

5月の新車販売は、前年比+33.8%と9ヵ月連続で増加。水準はコロナ前を下回るものの、持ち直しの動きがみられる。



(出所) 経済産業省「商業動態統計」

(注) 百貨店、スーパー、コンビニ、ドラッグストア、家電量販店、ホームセンターの合計

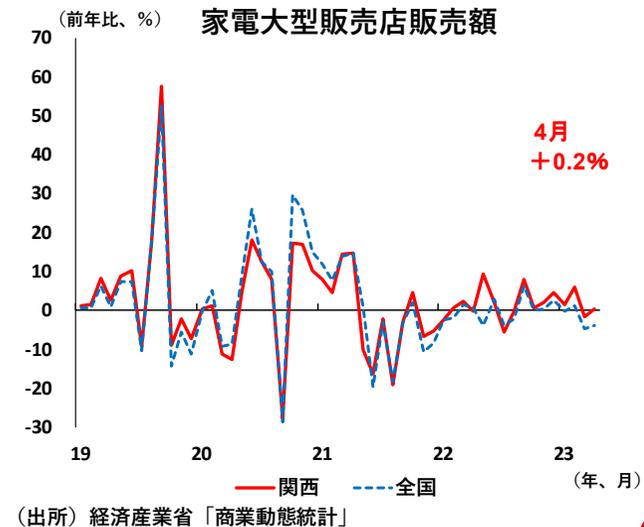
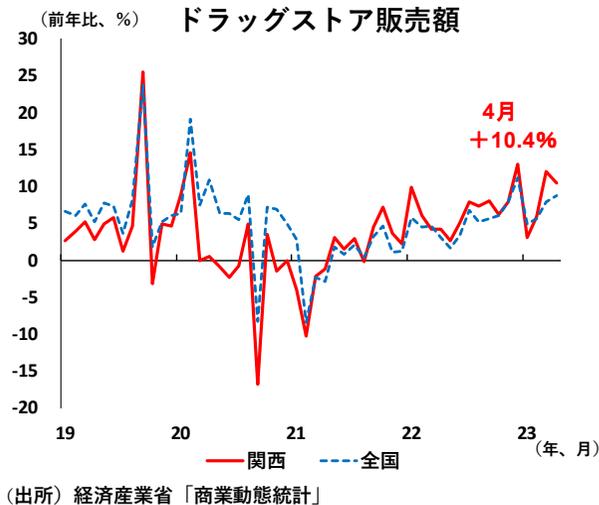
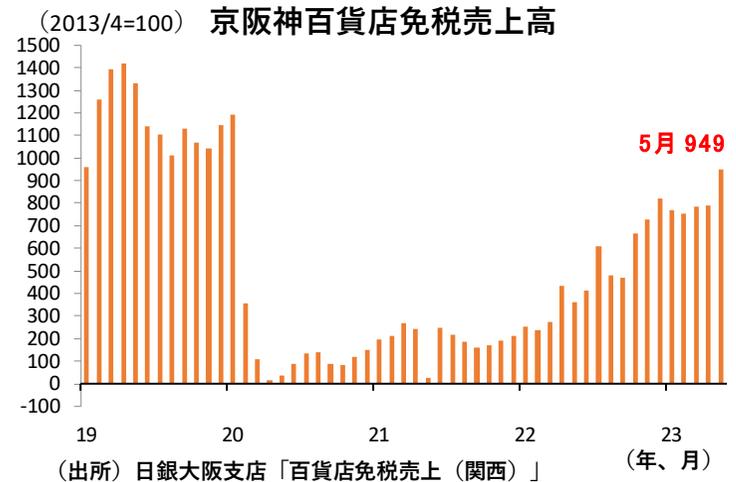
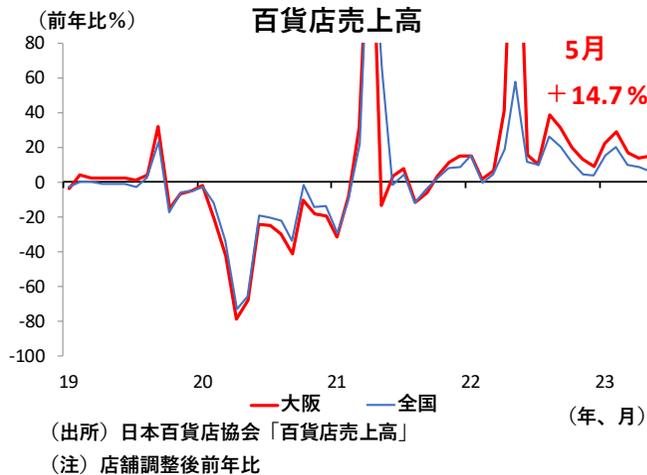


(出所) 日本自動車販売協会連合会「新車販売台数状況」

全国軽自動車協会連合会「軽四輪車新車販売」

個人消費(業態別)

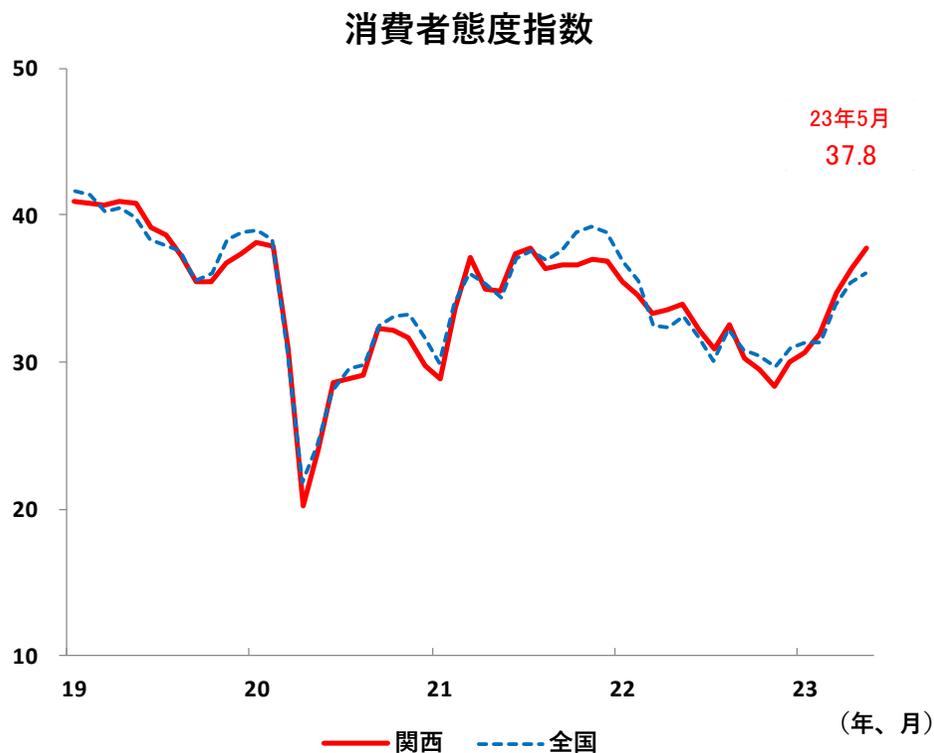
5月の百貨店売上(大阪)は前年比+14.7%と20ヵ月連続で増加した。京阪神百貨店免税売上指数は、入国制限の緩和以降水準を上げ、5月は949とコロナ前の19年平均(1167)の8割強まで戻している。



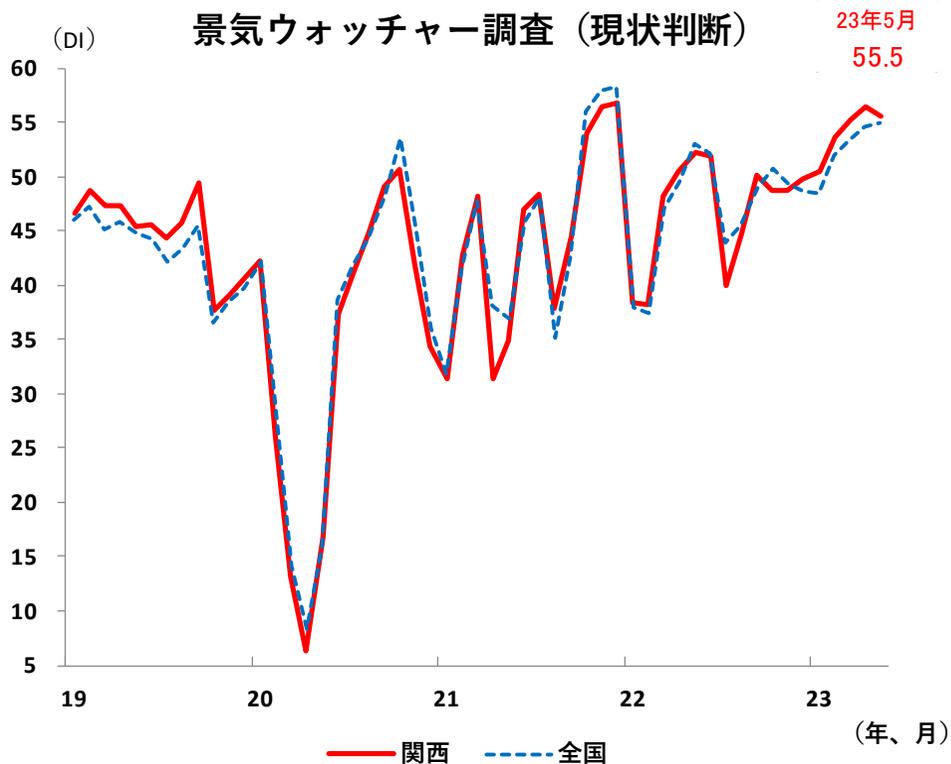
マインド・景況感

5月の消費者態度指数(季節調整値)は37.8と6カ月連続で上昇した。

5月の景気ウォッチャー調査(現状判断DI)は、55.5と6カ月ぶりに低下したが、横ばいを示す50を5カ月連続で上回った。インバウンドの増加が景況感にプラスとなる一方、物価上昇がマイナスに働いた。



(注)関西の季節調整値はMURC試算
(出所)内閣府「消費動向調査」

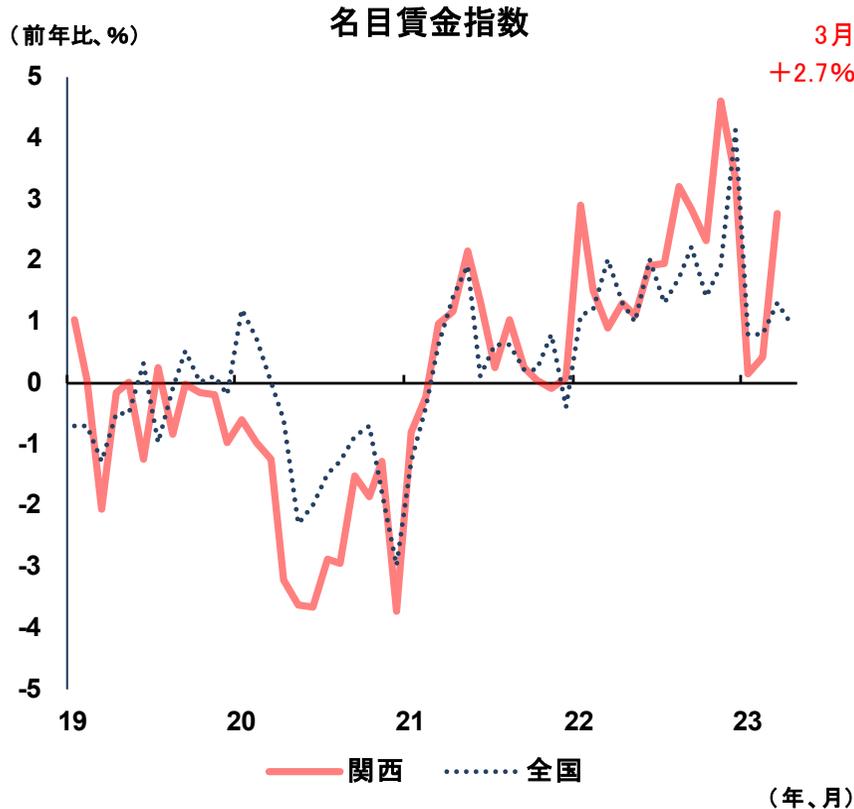


(出所)内閣府「景気ウォッチャー調査」

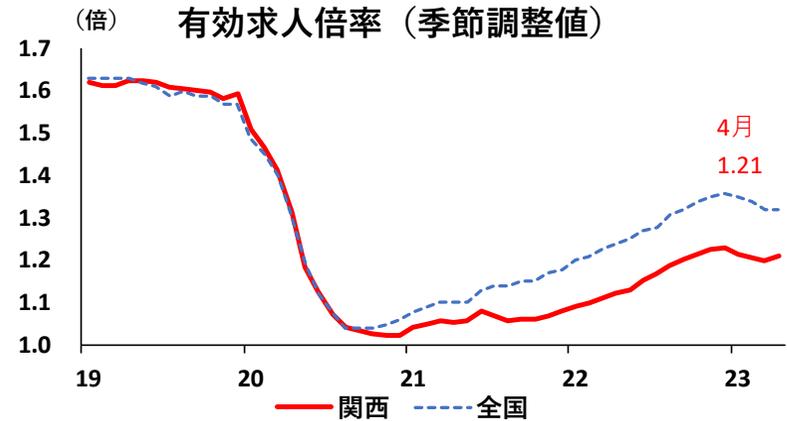
賃金・雇用

3月の名目賃金指数は前年比+2.7%と16ヵ月連続で増加。

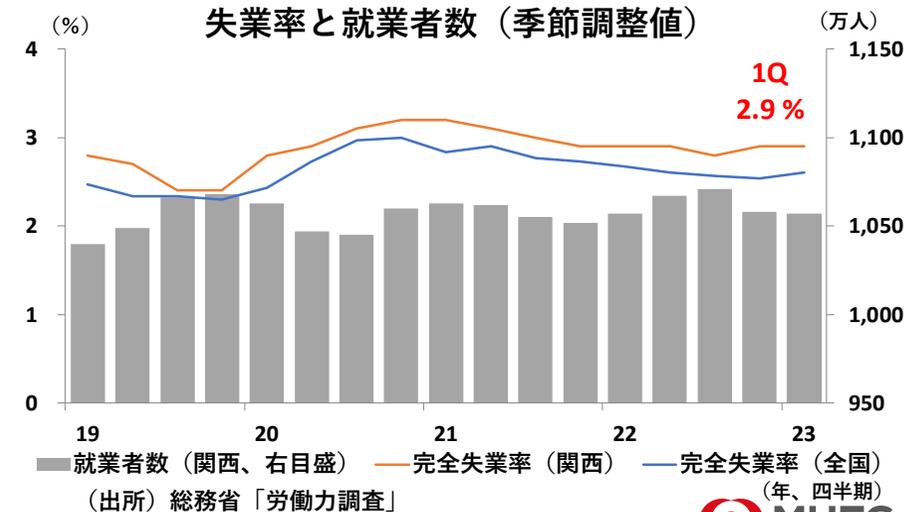
4月の有効求人倍率は1.21倍と前月とほぼ同水準。全国に比べ求職者数増加の度合いが高く、求人倍率は低めで推移している。23年1-3月期の失業率は2.9%と前期から横ばい、就業者数もほぼ横ばいとなった。



(注) 関西2府4県の名目賃金指数を常用労働者数で按分し合成したもの、MURC試算
(出所) 厚生労働省、各県「毎月勤労統計」

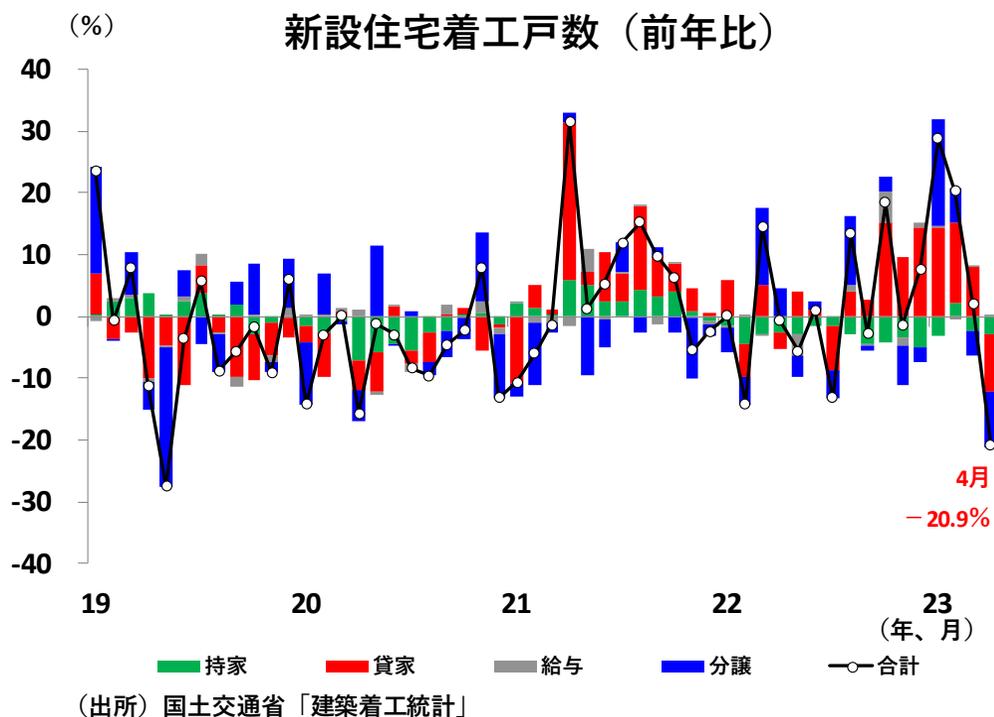
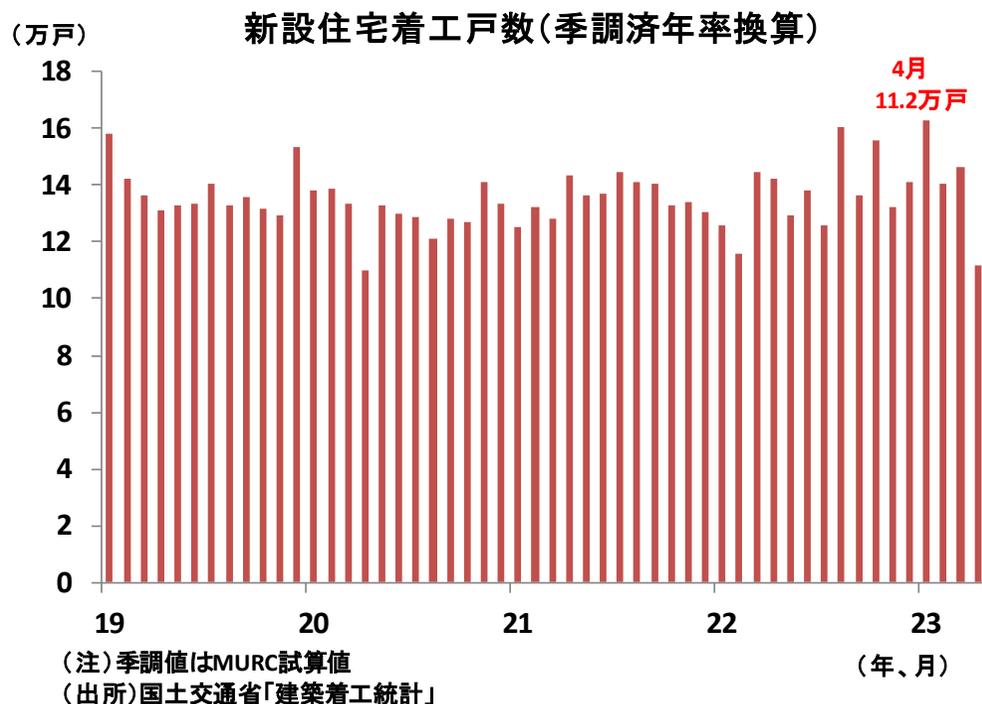


(出所) 厚生労働省「一般職業紹介状況」



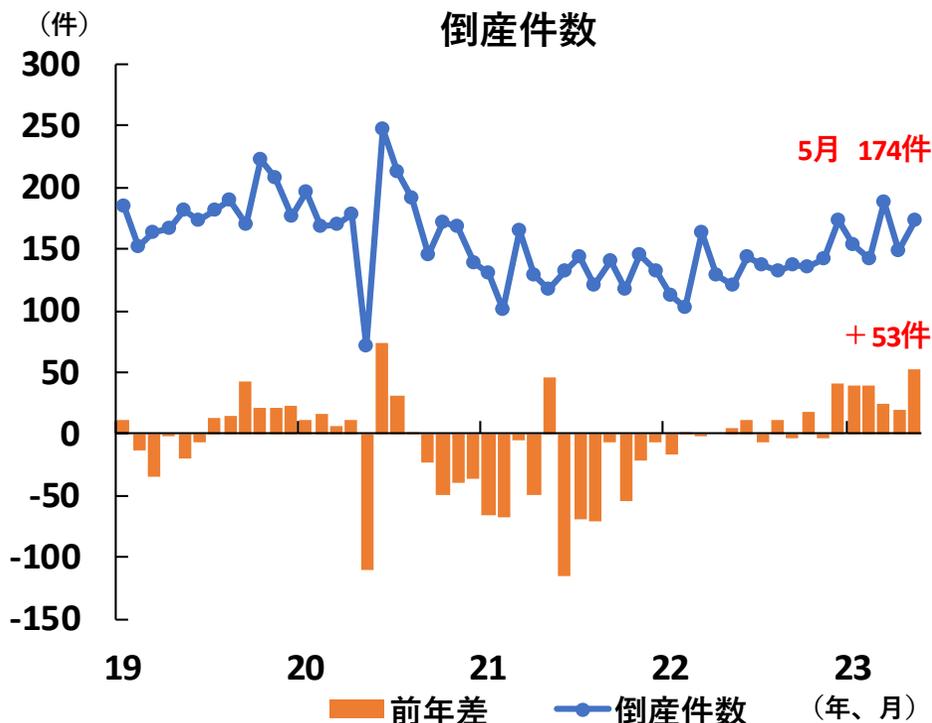
住宅投資

4月の住宅着工は季調・年率11.2万戸と2ヵ月ぶりに前月比で減少。前年比では、持家、貸家、分譲が減少し、全体で-20.9%の減少となった。貸家、分譲マンションが大きく減少した。



倒産

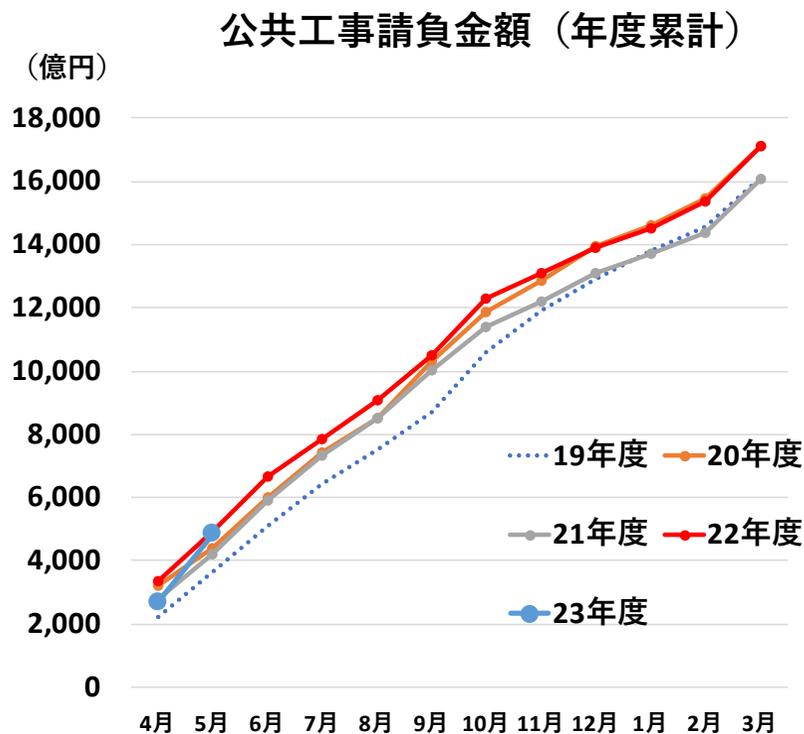
5月の倒産件数は174件と前年から53件増加。このところ前年からの増加が続いている。



(出所) 東京商工リサーチ「全国企業倒産状況」

公共投資

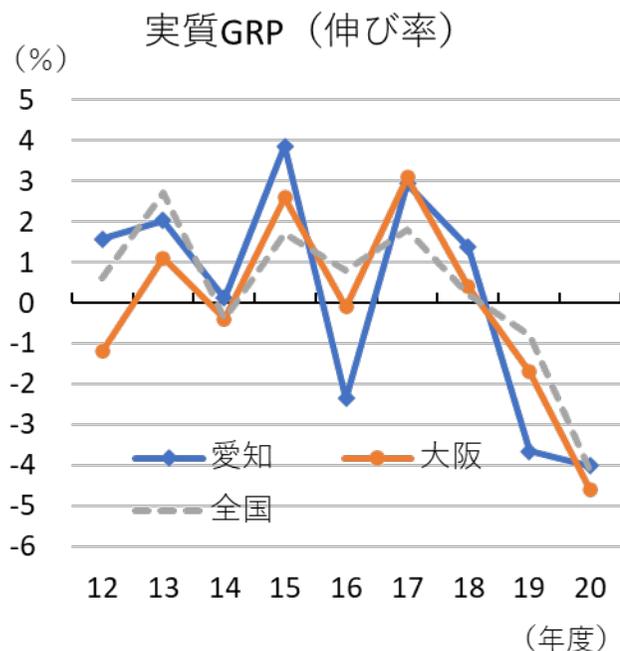
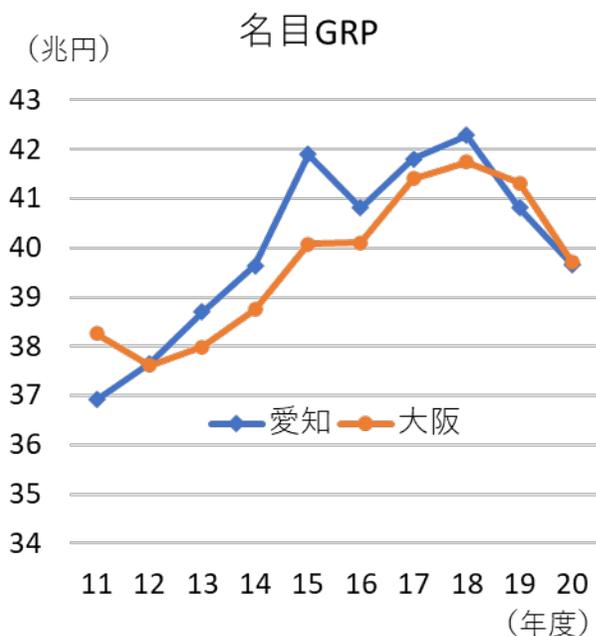
5月の公共工事請負金額(年度累計)は、前年比-1.0%の4,853億円。前年比でマイナスとなったが、近年では高めの水準となっている。



(出所) 東日本建設業保証「公共工事前払金保証統計」

【Topic】 20年度の名目GRPは、19年度に続き大阪が僅差で愛知を上回る

- 新型コロナウイルス感染拡大が始まった2020年度の名目GRPは、それぞれ39.66兆円、39.72兆円とほぼ拮抗しているが、わずかに大阪が上回り、19年度、20年度と2年続けて、大阪が東京に次ぐ2番手の座についた。
- 2012年度から18年度までは、愛知のGRPが大阪を上回っていたが、これは主に高水準の設備投資によるものであり、他の需要項目は大阪が愛知を上回っていた。
- 愛知の設備投資は19年度、20年度と2年連続で前年比マイナスとなり、この落ち込みにより、19年度以降、2番手の座を大阪に再び譲ることとなった。
- 大阪の20年度の実質GRP成長率は、公共投資の減少も影響して、全国、愛知よりもマイナス幅が大きくなった。



	2020年度 (前年比%)		
	愛知	大阪	全国
実質GRP	-4.0	-4.6	-4.1
個人消費	-4.1	-4.4	-5.1
住宅投資	-9.7	-10.5	-7.6
設備投資	-6.0	-9.0	-5.7
政府消費	3.6	6.7	2.7
公共投資	4.5	-7.8	4.9
名目GRP	-2.8	-3.9	-3.5

(出所) 愛知県、大阪府、内閣府

ご利用に際してのご留意事項を記載していますので、ご参照ください。

(お問い合わせ)調査部 塚田 TEL:03-6733-1626 E-mail:chosa-report@murc.jp

〒105-8501

東京都港区虎ノ門5-11-2 オランダヒルズ森タワー

－ ご利用に際して －

- 本資料は、執筆時点で信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一した見解を示すものではありません
- 本資料に基づくお客さまの決定、行為、およびその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客さまご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所:三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要です。当社までご連絡ください